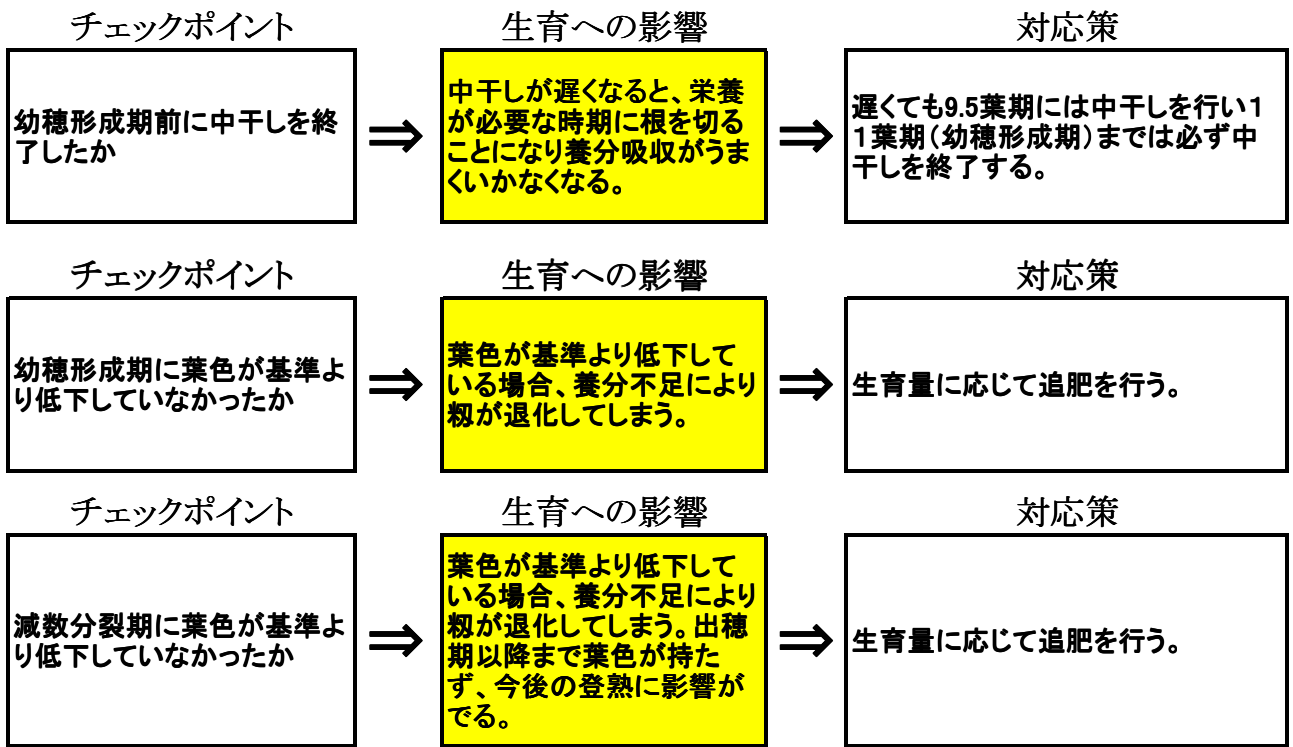


単収確保に向けて 《第7弾》

生育量に応じて適期穂肥を実施しよう！

7月5日の管内の生育調査データによると、草丈、葉令についてはほぼ平年並みに推移しておりますが、依然として茎数は平年よりも多くなっております。ただし、圃場によっては、生育量が平年より少なめの圃場もありますので、各自圃場を確認し各営農センターによる生育調査結果を確認の上管理作業をお願い致します。

◎今後の管理について



○幼穂形成期の追肥の効果

・葉色を維持することにより、籾の退化を防ぎ、籾殻を大きくする効果があります。

○減数分裂期の追肥の効果

・登熟の向上、稲体維持、高温時の乳白粒の発生防止に効果があります。

○今後の水管理について

・中干し終了後は、間断かん水(2日湛水、3日落水)を行い、活力維持してください。

単収確保に向けた重点実施事項

チェックポイントを点検し
該当する対応策を実施しましょう。